



ゲルジア

Georgia

2007年10月現在



一般事情

- 1.面積 6万9,700平方キロメートル(日本の約5分の1)
- 2.人口 451万人(2005年)
- 3.首都 トビリシ
- 4.民族 ゲルジア人(70.1%)、アルメニア人(8.1%)、ロシア人(6.3%)、アゼル人(5.7%)他(2005年CIS統計委員会)
- 5.言語 公用語はゲルジア語
- 6.宗教 ゲルジア人の宗教は、主としてキリスト教(ゲルジア正教)
- 7.通貨 ラリ(Lari:1995年9月25日導入)(CIS統計委員会)
為替レート 1ドル = 1.71ラリ(2007年2月末)
補助通貨単位 100セント = CENT/S
- 8.査証(ビザ)
- 9.在留邦人数 10人(2007年2月現在)
- 10.在日当該国人数 41人(2005年末現在)
- 11.電源 V Hz
- 12.国際電話 国番号 995 国際通話コード 810
- 13.シガレット 小売価格 0.2 US\$ (20本当り)
税率 75.0%
製造数量 7,400 (百万本/年)
シガレットメーカー

Batumi Tobacco Plant
Sukhumi Tobacco Plant
Tbiltabak

14.略史

年月	略史
前6世紀	西ゲルジアにコルキス王国成立
前4 - 3世紀	東ゲルジアにイベリア(カルトリ)王国成立
4世紀	イベリア(カルトリ)王国がキリスト教を国教化。ゲルジア文字の考案
562年	西ゲルジア、ビザンツ帝国により併合
6世紀	東ゲルジア、サーサーン朝ペルシアにより征服
7世紀後半	東ゲルジア、アラブにより征服
975年	バグラト朝成立。タマラ女王(在位1184年-1213年)のもとバグラト朝最盛期、南コーカサス全域を領有
13世紀以降	数次にわたる外敵の侵入、国土の疲弊
16世紀以降	オスマン朝とサファヴィー朝により東西に分割
1783年	ロシア帝国、東ゲルジアのカルトリ・カヘティア王国を保護国化
1801年	東ゲルジア、ロシアに併合
19世紀前半	西ゲルジアの諸地方、漸次ロシアに併合
1844年	ロシア帝国、チフリスにカフカース総督府設置
1878年	アジャリア併合によりゲルジア制圧完了
1918年5月	ゲルジア・メンシェヴィキによりゲルジア共和国独立宣言
1921年2月	赤軍チフリス入城、ゲルジア・ソヴィエト社会主義共和国成立
1922年	アルメニア、アゼルバイジャンと共にザカフカース社会主義連邦ソヴィエト共和国を形成、ソ連邦結成に参加。
1956年	トビリシ事件(民衆集会・運動が軍により流血の弾圧)
1989年4月	トビリシ事件(独立回復要求集会へのソ連軍の弾圧)
1991年4月9日	共和国独立宣言
1991年5月	ガムサフルディア、初代大統領に当選
1992年1月6日	反ガムサフルディア派、大統領官邸占拠。ガムサフルディア大統領、ゲルジアから脱出
1992年2月	国家評議会創設。シェヴァルナツェ元ソ連外相が帰国し、国家評議会議長に就任
1995年11月	シェヴァルナツェ大統領就任(2000年再選)
2003年11月	野党勢力が議会を占拠、シェヴァルナツェ大統領辞任(バラ革命)
2004年1月	サーカシヴィリ大統領就任

15.在外大使館・領事館 なし

16.駐日大使館・領事館

ゲルジア大使館

Embassy of Georgia in Japan

〒102-0094 千代田区紀尾井町3番3号南部ビル2階

電話:03-5226-5011

政治体制・内政

- 1.政体 共和制
- 2.元首 ミヘイル・サーカシヴィリ大統領(任期5年、2004年1月に選出)
- 3.議会 一院制(任期4年、定数235)
- 4.政府
 - (1)首相 ズラブ・ノガイデリ
 - (2)外相 ゲラ・ベズアシビリ
- 5.内政 ガムサフルディア初代大統領は、反政府勢力との武力衝突等により、1992年1月に失脚、3月新しい最高権力機関として国家評議会(約60%で構成、メンバーの大半は反共活動家)が創設。同評議会議長にシェヴァルナツェ元ソ連外相が就任。10月には最高会議議長に選出された。テロ行為などが繰り返されてしばらく情勢は不安定であったが、1995年11月、新憲法のもとで大統領選と議会選挙が同時に行われ、シェヴァルナツェが圧倒的支持を得て大統領に当選(2000年4月再選)、議会選挙でも同大統領派「グルジア市民同盟」が第一党となった。しかし、経済の低迷と政府の腐敗を背景として国民の不満が蓄積、2003年11月には議会選の結果を不服とする野党勢力が議会及び大統領府を占拠、結果としてシェヴァルナツェ大統領が辞任に追い込まれた(バラ革命)。2004年1月に実施された大統領選挙では、政変の中心人物であるサーカシヴィリ氏が圧倒的支持を得て当選した。同年3月には議会比例区の再選挙で与党ブロック「国民運動・民主党」が圧勝。サーカシヴィリ大統領は汚職根絶など改革を積極的に推進。アブハジア(アブハズ人はイスラム教徒)、南オセチア(オセット人はイラン系民族、キリスト教徒)の民族紛争を抱え、両地域には中央政府の実効支配が及んでいない。

外交・国防

- 1.外交基本方針 サークシヴィリ政権は、2005年5月にはプッシュミ大統領の訪問を得た他、2005年8月にはユーシチェンコ・ウクライナ大統領とともに「民主的選択に関する共同体」の設立を宣言するなど、親欧米路線を明確に打ち出し、NATO加盟を目指している。ロシアとは、グルジア国内の民族紛争(アブハジア及び南オセチア問題)、ロシアによるグルジア産ワインの輸入禁止、グルジアのNATO加盟に向けた動き、グルジア当局によるロシア軍将校逮捕などにより緊張関係が続いている。
- 2.軍事力 総兵力11,320(陸軍7,042、海軍1,350、空軍1,350) 駐留ロシア軍3,000(ミリタリー・バランス2006年)

経済

- 1.主要産業 農業、食品加工業、鉱業
- 2.GDP 64億ドル(2005年:EBRD)
- 3.一人当たりGDP 1,385ドル(2005年:EBRD 推定値)
- 4.経済成長率 9.3%(2005年:EBRD 推定値)
- 5.物価上昇率 8.4%(2005年:EBRD 推定値)
- 6.失業率 13.8%(2005年 EBRD 推定値)
- 7.総貿易額 (2006年:CIS統計委員会)
 - (1)輸出 9.93億ドル
 - (2)輸入 36.81億ドル
- 8.主要貿易品目 (2005年:CIA THE WORLD FACTBOOK)
 - (1)輸出 くず鉄、機械設備、化学製品、燃料再輸出品、柑橘類、茶、ワイン
 - (2)輸入 燃料、機械及び部品、輸送設備、穀物、その他食料品
- 9.主要貿易相手国 (2005年:CIA THE WORLD FACTBOOK)
 - (1)輸出 ロシア、トルコ、アゼルバイジャン
 - (2)輸入 ロシア、トルコ、アゼルバイジャン
- 10.通貨 ラリ(Lari:1995年9月25日導入)(CIS統計委員会)
- 11.為替レート 1ドル=1.71ラリ(2007年2月末)
- 12.経済概況

主要産業は、茶、柑橘類、果物、たばこ、ブドウ栽培を中心とする農業及び畜産業、紅茶・ワインを中心とする食品加工業、マンガンなどの鉱業。エネルギー資源は乏しく、ロシアに相当依存。グルジア経済はBTC石油パイプライン及びBTEガスパイプライン建設を背景とするサービス部門等の成長に加え、農業を始めとする国内産業の好調を背景に2005年には9.3%のGDP成長率を記録(2006年第1四半期のそれは8.4%)。しかし、2006年3月にロシアがグルジア産ワイン、ミネラル・ウォーター及び柑橘類を輸入禁止としたことにより、関連産業に深刻な被害が発生。

経済協力

- 1.我が国の援助実績
 - (1)有償資金協力 53.32億円 (2005年度までの累計)
 - (2)無償資金協力 71.20億円 (2005年度までの累計/文化・草の根無償等を含む)
 - (3)技術協力実績 12.80億円 (2005年度までの累計)((1)~(2)は、何れも交換公文ベース)

2.主要援助国(2005年) 米国、ドイツ、フランス、オランダ、ノルウェー
DAC諸国のODA実績(過去5年)(支出純額、単位:百万ドル)

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	合計
2001	米 94.3	独 20.1	日本 15.5	英 5.7	蘭 3.3	151.6
2002	米 133.3	独 21.0	日本 18.6	蘭 8.9	スイス 4.5	209.5
2003	米 75.0	独 31.7	日本 16.4	スイス 6.9	ギリシャ 5.2	163.9
2004	米 92.3	独 58.4	日本 10.6	スイス 8.0	蘭 7.5	209.1
2005	米 73.3	独 51.1	仏 17.5	蘭 12.0	ルウェー 8	198.4

(出典: DAC/International Development Statistics)

二国間関係

1.政治関係

(1)国家承認日 1992年4月3日

(2)外交関係開設日 1992年8月3日

在日グルジア大使館は2007年2月開設。我が国は在アゼルバイジャン日本大使館がグルジアを兼轄。

国内情勢の不安定や民族紛争等により我が国との関係はこれまで必ずしも十分ではなかったが、近年の情勢安定化に伴い、両国関係を整備する環境が次第に整いつつある。

2.経済関係

我が国の対グルジア貿易

(イ)貿易額(2006年:財務省貿易統計)

輸出 53億円

輸入 14億円

(ロ)主要品目(2006年:財務省貿易統計)

輸出 自動車、電気製品、一般機械等

輸入 食料品、金属及び同製品、原料品等

3.文化関係

文化無償協力

1999年度 国立トビリシ・コンサートホールに対する音響機材(50百万円)

4.在留邦人数

10人(2007年2月現在)

5.在日当該国人数

41人(2005年末現在)

6.要人往来

(1)往(1993年以降)

年月	要人名
1997年8月	中山太郎衆議院議員
1999年10月	コーカサス友好親善ミッション(中山太郎衆議院議員団長)
2006年7月	山中燐子 外務政務官
2006年8月	逢沢一郎衆議院議員
2007年5月	関口昌一大臣政務官

(2)来(1992年以降)

年月	要人名
1992年10月	チクヴァイゼ外相(旧ソ連邦支援東京会議)
1997年12月	レキシビリ国務大臣(民間招待)
1999年3月	シェヴァルナツェ大統領(公式実務訪問)
2001年6月	メナガリシヴィリ外相(コーカサス三カ国展)
2005年9月	チョゴバツェ経済開発大臣(博覧会賓客)
2007年3月	サーカシヴィリ大統領(実務訪問賓客)

7.二国間条約・取極

1994年4月 旧ソ連邦との間で結んだ条約の承継を確認。